

令和2年度 第1回酒田市総合教育会議議事録

開催日時	令和2年7月3日(金) 13:30~15:30
開催場所	酒田市役所3階 第一委員会室
出席者	丸山至市長、村上幸太郎教育長、岩間奏子委員、渡部敦委員、 神田直弥委員、村上千景委員
(オブザーバー)	齋藤正志亀ヶ崎小学校長、今野誠第三中学校長
(市長部局)	那須欣男危機管理監、宮崎和幸企画部長、前田茂男危機管理課長
(事務局)	齋藤一志教育次長、長村正弘企画管理課長、阿部周学校教育課長、 阿部武志社会教育文化課長、岩浪勝彦図書館長、樋渡隆スポーツ振 興課長補佐、杉山稔企画管理課長補佐
協議事項	新型コロナウイルス感染症と子どもの安心・安全確保と学びの保障

1 開会

(齋藤教育次長)

それでは、これより令和2年度第1回酒田市総合教育会議を開会させていただきます。

本日の会議の進行を務めさせていただきます教育次長の齋藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします

本日、3名の方から傍聴の申し出をいただいておりますのでご報告申し上げます。なお、本日の資料につきましては、傍聴者へ配布させていただくこととします。

最初に、丸山市長からご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ

(丸山市長)

皆さまご苦勞様でございます。協議に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、大変お忙しい中、とりわけコロナの感染の中で、それぞれの仕事の面でも大変お忙しいところ、今年度第1回総合教育会議にお集まり頂きました。ありがとうございます。

今日は、この総合教育会議に、小学校長会の会長でございます亀ヶ崎小学校の齋藤校長先生、それから中学校長会の会長でございます第三中学校の今野校長先生からもオブザーバーとして参加を頂いております。本当にありがとうございます。今回は、新型コロナウイルスの対応の関係で、「子どもたちの安心・安全確保と学びの保障」というテーマで皆さんとご協議したいと思っておりますが、両先生からは、日々、子どもたちそれから学校経営の面で、この新型コロナウイルスの対応という事を常に念頭に置きながら、ご尽力され、ご苦勞されており、教育現場を預かる立場から、生の声を総合教育会議でお聞かせいただければ大変ありがたいと思います。

この新型コロナウイルス感染症については、やはり子どもたちの安心・安全をどうやって守り、そして学びの機会をどう確保してしっかり保障をしていくかといったことが、我々に大きな課題として投げかけられていると思っております。

1月下旬に日本で最初に感染者が出て、その後、山形県からも一気に感染者が出たという事で、我々も本当に危機感を持って臨んでいましたが、2月27日に内閣総理大臣から学校休業の要請が突如発せられ、酒田市では3月3日から小中学校の休業を決めました。その後、酒田市での感染者の確認ですとか、あるいは緊急事態宣言という形で全国に拡大された関係で、最終的に酒田市において完全に学校が再開されたのは5月25日となったところです。それ以前にも一部対応はしておりましたが、5月25日に完全再開されました。その間、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を酒田市で約30回開催しましたが、その中で地区の医師会、それから薬剤師会、歯科医師会、更には日本海総合病院の院長先生も含めた酒田市独自の専門家会議なども立ち上げながら、特に学校の再開、子どもたちへの影響というものを、いつも議論した記憶がございます。そういった事に留意しながら学校の休業に伴う様々な対応を協議してきたところです。合わせてマスクや消毒薬の確保、学童保育でのお子さんたちの対応、そういったことも基本的に検討してきました。いずれにしても市民の皆様から多大なご協力を頂いて、今のところ無事に子どもたちも元気に学校に通っておりますし、平常通りとまではいかないですが、学校が再開でき、子どもたちが元気に通っている姿を見るとちょっと安堵する思いです。その顔を見るに付けて、6月議会でも話題になりましたけれども、エアコンが全部整備されていて良かったなという思いを深く思ったところです。

日本全国を見れば、特に東京では第2波かというくらいに患者さんが出ており、まだまだ安心できる状態ではないですが、幸い山形県はほとんど新規の患者さんが出ていない、入院している方は1人という事ですから、まずはそんなに心配する状況ではないと言いつつも、県を跨いだ行き来がなされる中で、いつ何時またこの地域でも感染拡大の兆候が現れるか、油断の許さないところと思っております。いずれにしましても、これから第2波、第3波ということも言われますが、それに備えて学校をどう持っていくのか、子どもたちの学びの保障をどうするのか、不断に議論をしながら万全の態勢で臨まなければいけないという思いを強く持っております。

そういった事も含めて、本日はいろいろなご意見をお聞かせいただければと思っておりますが、もうひとつ、新型コロナウイルス感染症の関係で、学びの保障ということで「GIGAスクール」構想が、国から脚光を浴びる形で、我々に降りてまいりました。令和2年度からの第2期酒田市教育振興基本計画、10か年計画を策定しましたが、「GIGAスクール」という言葉は基本的にほとんど出てこない。そのくらいこのコロナというものが教育に与えた影響はものすごいものがあつた、大きな波として押し寄せてきた、我々が想定していなかった言葉として、我々に降りかかっているとそんな思いがあります。いずれにしてもこれも新型コロナの感染拡大に備えた形で、子どもたちの学習の機会をどうやって確保していくのかという事からスタートした話でもありますし、安心・安全あるいは子どもたちに感染が及ばないようにするために、先生方がどんな対応をしなければいけないのかという事も含めて、

これからも十分気を許さずに、様々な環境整備や学校の態勢、あるいは先生方のスキルアップも含めて検討していかなければいけないと思っているところでございます。

本日は子どもたちの安心・安全と、学びの機会の確保ということでテーマに設けましたが、それ以外でも今回のコロナ禍の中で感じたこと、今後への備えという事で忌憚のないご意見をどうぞお聞かせいただければと思います。これからもこのコロナ対策につきましては、市長部局と教育委員会としっかり連携を取りながら、万全の態勢で臨んでいきたいと思っておりますので、今後とも教育委員の皆様、そして校長会の先生方にはご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。宜しく願いいたします。

(齋藤教育次長)

続きまして、村上教育長からご挨拶をお願いいたします。

(村上教育長)

ただ今、市長からご挨拶を頂戴しましたが、市長におかれましては、総合教育会議を開催していただき、またテーマを、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした話題を取り上げて頂き感謝申し上げます。

これまでを振り返ってみた時に、私の感想といたしましては、かつてない状況にあるのだなという事を認識しました。コロナそれ自体の病原性の問題もありますが、自治体の判断力ということをこれほど強く意識したことはなかったと思います。世界中の問題であり、日本全体の問題であり、そして山形県の問題であったわけですが、国レベル、県レベルで様々な判断がなされた中で、地方自治体がどのように考え、どう判断したかということ、実際に表明し、実施し、そしてその理由、それから自治体による判断の違いも一定程度きちんと説明しなければならない。当然の事ですが、そういった仕組みになっているという事を、制度上これほどリアルに感じたことはなかったと思います。

そういう視点で振り返ってみた時に、やはり酒田市の対策本部会議が早くからスタートしていたということ、そして、市全体の専門家会議が発足していた、これは教育委員の皆さまからも同席いただいた会もございましたが、市の現状など、様々なデータや知見を市のレベルで集めて判断してきたということ振り返って、市長部局に基盤として支えて頂いて、ここまで来ることができたと思っているところです。これからの酒田の教育、教育委員会所管の事業等どうしたらいいかという事は、基盤としてやはり自治体が基本的な考え方を持っていて、その上で教育委員会に特化した部分については、どのような判断をしていったらいいかということが問われ続けていくと思っているところです。そういう構造の上からも、市長との意見交換と言いましょか、そういった関係をずっと密にしていかなければならないと感じたところでございます。

社会としては、健康と経済という天秤のようなよく言われ方をしますけれども、教育委員会にしてみると、性質上、健康と学び、これが天秤にかけられる。どの程度のバランスを図

っていけるのかということとっております。それぞれの、その時々状況をみんなでデータを共有し、そして考えていくという仕組み自体を充実していきたいとっております。

今日は、お二人の校長先生からもそういった面で現状をより詳しく教えて頂くと共に、様々なデータの共有、そういった事も一層深めていきたいとっております。よろしくお願いたします。

3 協議

(齋藤教育次長)

それではこれより協議に入ります。ここからは市長に座長をお願いいたします。発言の際には皆様は座ったままでお願いをいたします。

(1) 本市の教育を取り巻く諸課題について

(丸山市長)

それでは協議に入りたいと思います。今回はテーマが1本ですから、本市の教育を取り巻く諸課題についてということで、カラー刷りの資料「新型コロナウイルス感染症と子どもの安心・安全確保と学びの保障」について意見交換をしたいと思います。最初に企画管理課長から説明いただいたのちに、オブザーバーの齋藤校長先生、次に今野校長先生から学校現場の状況についてお話を聞かせて頂ければと思います。

よろしくお願いたします。

(長村企画管理課長)

新型コロナウイルス感染症と子どもの安心・安全確保と学びの保障についてご説明をさせていただきます。この資料につきましては、対応経過、課題の状況、学校の様子3点でまとめております。説明につきましては、要点のみかいつまんで説明をさせていただきます。

最初に、1の対応経過について時系列で説明します。1月23日、日本初の感染者の確認を受けまして、1月27日に市対策本部会議において学校休業の判断基準を協議しました。教育委員会では国・県・庄内教育事務所等の通知を各学校長に周知しながら、対応を依頼しております。その後、2月には学校の感染症予防物品の在庫調査や、必要な物品の発注などを教育委員会の方で行いました。2月27日に内閣総理大臣による全国の学校への休業要請がありました。翌日の2月28日には市の対策本部会議で学校の休業期間、部活、卒業式等実施の方向性の確認を行い、教育委員会から学校を通じて保護者等に臨時休業のお知らせをしたところです。対策本部会議では、医師会、歯科医師会、薬剤師会等による市独自の専門家会議を設置し、学校再開に向けた対応等について専門的な知見や助言を頂き、対応検討の参考にさせて頂いております。3月16日、18日に卒業式を行いましたが、3密にならないよう、感染予防や保護者の要望に配慮しながら、学校ごとに工夫しながら実施しました。4

月6日に鶴岡市で、4月8日には本市でも新型コロナウイルスの感染者が確認され、学校の休業も延長されましたが、4月20～22日の間に感染予防に配慮しながら入学式も実施しました。その後、4月22日には臨時校長会の中で感染拡大地域に行き来する家庭の子どもへの対応、メールシステムの運用、学校再開に向けた基本的な考え、教育課程、学期等についての協議を行いながら、教育委員会と学校とでの対応を確認し、学校再開に向けた取り組みを進めました。5月8日には、専門家会議より学校再開に向けた意見を頂き、5月11日から学校再開し、5月25日から完全再開となっております。

現在、学校での感染リスクを最小化するために作成した新型コロナウイルス感染症に係る対応マニュアル「新しい生活様式」に基づいた学校運営チェックリストを用いながら対応しているところです。

続いて、2の課題の状況でございます。こちらの課題につきまして、大きく安心・安全の確保と学びの保障という2つに分かれますが、具体的には記載の11項目に整理しております。まず安心・安全確保の面では、①医療用物品等の入手が需給のひっ迫により困難であったという事を上げております。②児童生徒の休業中の居場所確保という事で、学童保育の関係や、グラウンドや体育館の開放等に取り組んでおりました。学校再開に関わってきますが、③スクールバス・学習バスの利用の部分については、消毒、増便の課題が出てきています。④学校関係者の感染者、もしくは濃厚接触者があった場合の対応等についても課題となります。⑤学校再開後の対策については、先ほど申し上げたマニュアル等を使いながらチェックし、教室の消毒等を行っており、人手の部分について課題が残っている状況です。それに加えて、学習課程の変更、夏期間の暑さ対策が想定されるところです。

学びの保障の面について、⑥配慮が必要な児童への対応ということで、生活面や心の面での状況の把握等が課題となっております。⑦式典実施に当たっての感染症対策の程度ということで、卒業式実施の際も保護者の方々が動いたということもあり、その対策の程度が課題となっております。⑧学習習慣・心のケアについて、家庭学習の課題や学校に行かないことでの人間関係の不安、生活リズム等々を項目として挙げています。⑨部活動について、休業中の体力低下、練習が行われないことでのケガのリスク、練習成果の発表・発揮する場の確保という部分が課題になると整理しています。⑩教育課程の見直しについて、夏休み期間を短縮して授業時数を確保したり、例えばプール授業を中止したり、GIGAスクール等への対応、取り組み等の部分、その他、行事への対応が変わってくるということで整理をしています。最後に⑪災害時の対応について、学校は避難所として使うこともありますので、感染症等への対応についても課題になるとして記載しています。

現在、全国一斉に学校の臨時休業した時から、新型コロナウイルスと共に生きていくという考え方に取り組みの方針が変わってきていますが、今現在、子どもたちの健康と学びの保障という2つの命題の両立を図りながら、学校では可能な限りの取り組みを行っております。今後の状況等を踏まえながら、方向性等をご協議いただければと思っております。

3の学校の様子状況につきましては、この後、亀ヶ崎小学校の齋藤校長先生、第三中学校の今野校長先生の方から学校の状況等について情報提供していただく段取りになっております。

ので、学校の様子については割愛させていただきます。

(丸山市長)

ありがとうございました。

それでは齋藤先生お願いいたします。

【齋藤校長先生が学校の状況を報告】

はじめに、コロナ対策に関わらず、いつも物心両面で学校を支えていただいていた本当にありがとうございます。お陰で大変な状況の中でも子どもたちは元気に活動することできております。御礼申し上げます。

最初に、5月24日まで臨時休業の措置を取っていましたが、その時の状況についてお話しいたします。最初、保護者の方もかなり混乱があるのかなという思いがありましたが、幸いにも保護者が学校の事情を十分に理解して、協力的に対応してくれました。連絡等をどうすればいいかなということがありますが、酒田市で運用している安全・安心メールが非常に役に立ったということと、学校のホームページでの連絡で、かなりの保護者が、周知を徹底できたということ、その辺が有り難かったなあとと思います。実際、元気な様子を確認するために、これは本校だけではありませんが、それぞれの学校で週1回ないし週2回子どもたちに直接電話をしたり、ということで子どもたちの様子を確認しながら進めていったというのが多くの学校ではないかと思えます。それから本校では、接触を避けるという形で、学びの保障というのがありましたが、出来る学習内容を子どもたちにさせたいという事がありましたので、プリントを配布したい、ところが各家庭を訪問して直接渡すと問題もあるということがありましたので、それぞれのご家庭には「ポストに投函して帰りますね」というようなことを伝えながら、念のためそういう措置も取らせていただきました。

それから、学童保育については、朝からずっと預かってというのがありましたので、少し心配で、私も担当者も数回子どもたちの様子を見に行きました。学童では本当に密集した中で生活をしていて心配もあったのですが、それでも元気に活動している子どもたちを見て、安心して帰ってきました。60%程度の参加で、後の4割の子どもたちはおじいちゃんおばあちゃんの所に預けてということで対応していたように思います。そういう面もあって少し密は避けられたかなという思いがあります。

それから、亀ヶ崎小学区では、いつも地域の方々から本当に良くしていただいています。市当局の方からも、寄付をいただいたマスクを学校にいただきましたが、それとは別に手づくりのマスクを地域の方達が、複数団体ですが、合わせて450枚以上作ってくださり、全員に1枚ずつ配布することができました。そういう有り難い志もいただきながら、子どもたちに「地域の方々もあなたたちを見守っているのだ」ということで話をしてきたところです。

それから臨時休業中に臨時の登校日を設けましたが、その時には登校できなかった子が17名ということで、かなりの子が登校できないという実態がありました。これは親御さんが心配をしていたという点もありますが、果たして学校再開した時に全員登校できるのだろうか

と思ったのですが、学校再開した時点では、全員登校することができて、安心をしたところ
です。ただし、中にはやはりコロナが怖いということで臨時休業中に全く家から出られな
くなったという子もいました。そういう子どもについては保護者の方と担任と連絡を取りなが
ら、なんとか心のケアをしていこうとこまめに対応させていただいたところでは
す。

うれしいニュースとしては、市内の開業医、歯科医師からいただいたメールで、亀ヶ崎小
学校のある子どもが、「コロナに気を付けてくださいね。いつも私の歯を治してくれてありが
とうございます。」ということで、自作のフェイスシールドをプレゼントしたそうです。大変
それがお医者さんにとってありがたかったといううれしいニュースをいただいて、子どもた
ちもつらい中でも心の成長をしながら、これもいい経験にしてきたのだなあという思いでい
たところでは
す。

再開後に関しては、5月25日から再開しましたがけれども、当初1週間は欠席が本当に少な
く、順調にスタートしたなと思えました。ところが2週間目になって、やはり疲れて休む子
どもがかなり見えてきたということがありました。それは1カ月たった今でも、やはり、そ
ういう面での心の不安もあるでしょうし、体の疲れもあるでしょうし、そういうところがあ
ってまだ波に乗れていないというお子さんもいます。特に1年生あたりは、やはり不安を抱
えていて、個別に対応するお子さんが例年より多いように思っています。考えてみると例年
であれば入学式から1カ月たつとゴールデンウィークがあり、そこでひと休みしてというこ
ともあるでしょうが、今年の場合はそのひと休みがないものですから、夏休みまで走らなけ
ればいけない、その夏休みもかなり少ない日数になってくるということで、これから子ども
たちの精神面をやはり今以上にケアしていかないといけないのだろうなあと思っ
ています。

後は、だんだんやはり密の意識が薄れてきているのは事実です。暑くなってきていますの
で、マスクの着用というのは非常に無理があり、しかも小学生の場合は自分で加減して外し
たり自分でつけたりということが難しいものですから、マスクの着用というのは頭を悩ませ
ているところです。今のところは、授業中、例えば読書をする時間だったり、テストをする
時間だったり、そういう時間に担任が指示をして「マスクを外していいよ」「これから発表す
るからマスクを付けようね」という事で授業を行っています。やはり1時間ずっとマスク、
1時間どころか1日マスクという事になると集中力が続かないという事があるので、ここは
少し大きな課題であると思います。それからマスクについては、この前1年生からこんな事
を言われました。「校長先生の顔初めて見た。」その時に私が思ったのですが、表情が見えな
いというのは子どもたちにとって不安要素だよなど。やはり私たちが『にこっ』と笑って接
することで、子どもも安心感がありますし、その辺を職員で考えていかなければいけない、
少しオーバーのアクションで子どもたちに安心感を与えないといけないという話をして、職
員でなんとかカバーしていこうと話をしています。

それから、教育活動に関して、1学期については全校朝会など体育館に全員集まるような
事はやっておりません。全て放送で朝会等も行っています。子どもたちが交流する活動もか
なり制約があって、大変なところもありますが、それぞれの学校で大きな行事といえますと、

2学期に運動会、学習発表会等ありますが、この辺りは子どもたちが伸びる活動でもありますので、親御さんの参加を考えながらこの2つの大きな行事はやりたいなということで、各校で統一をしているところです。ある程度校長会で2校揃えた方がいいのではという事で、校長会の方に私が原案を作って流しました。修学旅行、今のところは宮城県を中心という事ですが、万が一の場合も考えて県内の施設もダブルで予約をしているというのが多くの学校の状況です。それから、運動会と学習発表会については先ほどお話ししましたが、子どもたちの自然体験教室、宿泊訓練というのがありますが、今日も荘内日報に掲載がありました。海浜自然の家、それから金峰少年自然の家等の宿泊については、ほとんどの学校が宿泊を見合わせております。酒田市の方から学習バスを増便していただくなどの配慮をいただいているので、宿泊をしないで日帰りで自然体験学習をやるという事で、多くの学校がそういう動きでおります。したがって1泊2日のものが泊を伴わないで2日間の自然体験学習を通いで行っているというのが現状です。

児童の様子、今後の課題ですが、幸いにも臨時休業明けに不登校に至った児童はいないのですが、話を聞いてみると、家庭で夜少し暴れてみたり、暴れるというのは悪気があるわけではなく、自分の気持ちをコントロールできなくて落ち着かなくなったり、またはこちらも心配なのですが、保護者の方のストレスも溜まっているものですから、やはり所得等の理由もあるのだと思います。子どもへの接し方に問題があるような事案もあって、それについては個別に対応しながら今のところは大きなことにならずに済んでいるところです。

職員の課題として2つあるかと思えます。朝、毎日子どもたちの検温チェックをしています。どこの学校も朝家庭で検温をしてきて、そして教室に入れる、入れない、そして微妙な子については再度検温するというチェックを行っております。そのために職員が早く出勤している現状があります。この辺は勤務調整をしていますけれども、限界はあります。それからもうひとつは、毎日教室等を全部消毒しております。これも担任を中心に職員全員で消毒を行っておりますが、やはり毎日30分~40分という時間を取られるという事で、その辺りも先生方の負担になっているのは事実です。

これから整えていかなければいけないと思うものについては、先日、国の方から100万ないし200万という多大な金額を学校に頂けるという事でしたので、例えば非接触型の体温計など、そういうものを有効に整えていきたいと思っています。少し長くなりましたが以上で終わります。

(丸山市長)

ありがとうございました。それでは中学校の関係を今野先生お願いします。

(今野校長先生)

はい。資料を説明する前に、口頭でお話させていただきます。

臨時休業中に何日か登校日があり、学年の方で生徒に「休校期間に考えたこと」を短い文で書いてもらい、それを学年通信や学級通信で紹介していました。その内容を見て、昨日集

会があった時、3年生に「当初、心の在り方について心配したけれども、事態を冷静に受け止めていること。それから自らの在り方、どう在るべきかという事を深く考えていることがすごく伝わってきて、たくましく生きる力が感じ取られる。」そんなことを生徒に話したところ
です。

生徒の思いを紹介します。

「今まで普通にしていたことが出来なくなったり、学校に行けなくなったり、外にまで出ていけなくなるということになり、普通に生活できることはとてもありがたい事だなと改めて思いました。学校に行くのが嫌だったり、面倒くさい時があったけど、今考えてみるとみんなに会える楽しさや嬉しさ、学校での充実した生活を送れるありがたさ、勉強が出来ることなど、普通に思っ
てはいけ
ないのだと知りました。」

また別の生徒は、

「自分たちの将来について考えた。今は苦しい時間が続いていて、これまでどおりの収入が得られない会社も多い。働く人たちの事も考え、今自分に出来る事を考える会社のトップは大変だと思った。大人になった時、就職氷河期かどうかも分からないので、今から考えて答えを出せるような力を付けていかなければいけないと感じた。」

また別の生徒は、

「このような混乱している非日常生活を送っていますが、必ず来年には受験、卒業があります。その中で、自分が今何をすべきなのかを常に考え行動していくことが来年へと繋がっていくと思います。この期間が逆に得へと変わるくらいの充実した生活を送っていきたく
いです。そして、日常生活へと戻ったとき体と心が追いつけるようにします。そのためには自分一人で努力しなければなりません。1日1日を大切にしていきたいです。」

代表でこの3人の感想を読みましたが、当初、生徒はいろいろな不安を抱いているのだら
うな
と思っていましたが、それ以上に逞しく思えて、とても嬉しく思いました。

教育委員会の資料に学校の様子というのがありますが、これを見ながら説明します。臨時休業期間中に、学校が始まったら登校日も含めて消毒をどうするか、消毒の研修をしなければ
ならない
と考え、養護教諭から聞いて、それぞれの学級で消毒をやってみたら1時間以上かかった。「これを毎日やるのは日常の学校生活が始まった時にとってもじゃないけど持たない
のでは
ないか、今言われている手洗いをきちっとしていくことが先で、それを大事にしなければ
ならない
のではないか」と話し合いましたが、学校は手洗いの場所が意外と少ないのです。それで、45分授業にしてとにかく手洗いの場所と時間を保障しないと全員が出来ない。その間は放送も入れて手洗いを
行う意識を高める。今現在は、ある程度指示をしなくても動けるようになっていて、50分授業に戻
して
います。大人側が全てするという事ではなく、生徒が自分たちで意識することが出来るように、3密を含めて意識を啓発していく必要があるのではないかと話し合い、そういう内容のポスターも廊下に貼っています。

授業時数については、年間の授業日数が当初205日で計画していましたが、現段階で言えば188日で、授業日数が少ない中でなんとか追いつけるように、そして第2波が入ってまた休業になるという事を想定して、生徒には負担がかかりますが、夏休みを短くして、授業も

ねらいを焦点化してやっていく。教科によっては単元の順序を入れ替えたりしながらやっていく。特に音楽などは今の段階ではみんなで歌うというのは大変なので、例えば鑑賞から入る等の対応をしています。今日も音楽の授業見てきましたが、スーパーと同じように透明のシートを校務員から付けてもらい、そこに向かって歌う。他の生徒は背中を向けて自習しているとか、数人で歌うとか、そんなふうにして飛沫感染を防ぐような手立てを取っています。家庭科では中学生ですから自分たちでマスクを作ろうという事で、マスク作りをしています。

部活動については、資料作成の時点では自校のみの単独練習でしたが、現段階では交流可能という事で動いています。今は他校との練習試合が少しずつ出来るようになってきています。

各学級の班の様子は、密を防ぐという意味で班を離しながら、話し合いをしています。

登校の様子は、小学校と同じで、検温と健康状態を家庭から確認してもらい、それを学校の方でチェックする。最初の頃は小学校と同じように職員の勤務時間を早くしました。ただ、部活動があると、部活動には職員が常時ついていることが前提のため、今現在、部活動終了時間が18時で勤務時間を過ぎる状況です。最初は生徒がだいたい出来るようになるまで先生方から7時45分まで来てもらい、昇降口を7時半で開けていたところを7時50分で開けるようにして、生徒には少し遅く来てもらい、先生は待っている。そして、健康カードで検温と健康状態をチェックする。チェック出来ない生徒については検温を保健室でもらう。このようにチェック体制を整え、やがて先生方は普通通りの勤務体制にし、その後は教頭と生徒指導主事が昇降口で「検温を忘れてきてしまった人は保健室へ行ってね。健康カードはちゃんと教室の棚に入れてね。」というような対応をしてきました。やがて、その対応も無くして、今は7時45分に昇降口を開け、生徒は登校後、教室に入るときにカードを提出する形にしています。そこに勤務時間を超えて昇降口等に立ち、挨拶をしながら声掛けをしている先生がいます。

給食はセルフサービスで、廊下で一列に並び、もらった自分の席に座って、班を作らず、全員同じ向きで食べています。

清掃の様子は手洗いの励行をしながらも、清掃の時は机・椅子を運ばず、他の生徒の物には触らないとして、掃き掃除と飛沫が広がることのないようにとフロアワイパーで拭き掃除をしています。

部活動の様子は、本校は6月に入ってから再開している。実は学校再開直後に全国大会・東北大会・県大会・地区大会も中止になり、文化部のコンクールも中止となり、特に3年生にとっては目標が無くなってしまうような状況で、ショックを受けるのではないかと心配していたのですが、私達の心配よりも子どもたちの心の強さを感じています。ショックはあったと思うのですが、切り替えて懸命に練習に取り組む姿、仲間と共に活動を楽しんでいる姿、3年生が2年生に教える姿、これは大人の感覚を超えた生徒の感性、逞しさを感じているところです。

今現在、消毒も大分簡略しているのですが、それでも教員は勤務時間より余裕をもって早く来て教室の窓を開けたりしている。そして部活動が終わるまでずっと見届けているもので

すから、勤務時間を超えている状況が続いています。校長の立場としては健康面を憂慮し、十分配慮しなければならないと感じております。

(丸山市長)

お三方からいろいろ状況の説明を頂きました。ありがとうございます。それでは、ご質問・ご意見、いろいろあろうかと思いますが、教育委員の皆様、何か質問など遠慮なくフリーティングで結構ですので、是非声を出して頂ければと思います。

早いもので1月から半年近く経ったのですね。いろいろな状況を見てみると、対策会議や本部会議でいうと、1番は教育委員会の課題が非常に多かったような気がします。生徒たちをどうするかとか、私の方も、いち早く教育支援員という人たちがたくさんいる。その人たちを投入して、先生たちの負担もそうですが、学童保育も含めた、そういった方々に協力して頂いて、なんとか元気に子どもたちが学校休業期間中でも生活できるように、そういう環境を整えていこうという話をする中で、学校は学校で再開したときも含めて大変な対応を皆さんが取られていたなど改めて感じた次第でございました。やはり小学生と中学生と比べて若干違いますね。中学校の先生の話の聞いたら、中学生はかなり大人なのだなど我々も見習わなければいけないような前向きな事を作文で書かれていたりしますし、確かに小学校1年生と中学校3年生じゃ全然違いますね。校長先生の顔を初めて見たというのもそうなのでしょう。私は、この間病院に行ってマスクして誰も気が付かないだろうと思っていても「あっ、市長だ。」とすぐ分かるのですよね。顔隠れてないのかなと思うのだけれど、子どもたちから見るとやはり先生方がマスクしては顔の全形は分かりませんからね。

(渡部委員)

校長先生のお話を今お聞きして、子どもたちの安全確保のために日ごろから学校現場で先生方の献身的な指導とか取り組み、この点に対して本当に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

このコロナ対策は長期に渡ることが予想されます。先生方の不安、負担を少しでも軽くするために、先程から問題点で上がっていましたが、医療用物品、安定的な入手というのは非常に大切だなと感じました。また、負担の大きい消毒、学校、教室の消毒作業というのは非常に大きな負担だと思います。費用の掛かる話なので難しいのかもしれませんが、一部専門業者の方をお願いするだとか、後は地域のボランティアの方に手伝って頂けないかなと、少しでも先生たちの負担を軽くできないかなと思いました。

もう1点、心のケアというところですが、終息が見えない状況の中で自分の身は自分で守る意識を、子どもたちも我々大人も全ての人が持たなければいけない状況ですが、いつまで我慢すればいいのかと考えると、緊張感を持ち続けることは凄く大きなストレスだと思うのです。子どもたちは部活動とかスポ少の制約だとか、学校行事、修学旅行もどうなるかということもありますし、これから受験の問題、不安もあります。子どもたちの心のケアも本当

に大切だと思いますが、同時に子どもたちを預かる最前線で奮闘する先生たちの心のケアというのも大切ななと思いました。

我々民間企業の経営者達はたまに集まって、コロナでどんな影響を受けているかとか、それに対してどんな対策をやっているかというのを、定期的集まって情報交換をしています。この情報交換というのは非常に役立つこともあるのですが、同時に気持ちが少し楽になるのです。お互いの苦労を話し合うというのは、非常に楽になるので大切な場だなと思います。学校現場でも、それぞれの学校、先生たちの知恵を出し合って取り組んでいらっしゃる状況だと思うので、学校の中だけではなくて学校単位とか、いろいろな情報交換をしたり、話し合う場があってもいいのではと思いました。

(丸山市長)

ありがとうございました。今お話しの中で、先生方の負担という事でしたが、地域の皆さんの協力というのもありました。確かに、先生方の負担も少し楽になのかなと感じますが、私自分、松陵学区だけを見ている限りでは、地域の見守り隊、朝早くから大勢の人が出ている。そこは良いでしょうけれども、実際消毒の作業等にボランティアでやっていただく、地域の皆さんが関わってくれたら少し楽になるのでしょうかけれども、地域毎というか学校単位で温度差があるでしょう。地域との協力関係というのは、なかなか一律にこうしなさいというのは我々も指示を出しにくいところもあるのですが、もし機会があればコミュニティ振興会とか自治会の関係はまちづくり推進課というところが担当していますが、そういった形で協力要請を出せるのであれば出してみてもいいかなとお話を聞いておりました。学校側からすると地域の皆さんからの労働奉仕ではないですが、消毒等で物品等は準備するにしても、学校に入って、そういうことをしていただく事についてはウェルカムな話なのか、それともなるべく限られた実情がはっきりわかっている人たちがしっかりやった方がいいのか、その辺はどうですか。

(今野校長先生)

本校は、地域の方といろいろな繋がりがあって思っているのですが、今年度は地域の方々との会議等を含めてほぼ中止にせざるを得ない状況です。新型コロナウイルスは見えないものですから、来てもらう事でどこかで感染に繋がると、これは迷惑がかかるという事で、本校の特徴的な取り組み活動の3コミ活動も今年度はあまり活動できないということを地域の方に伝えているのです。それとの関りでどうかという思いはあります。

(丸山市長)

小学校と中学校で学区、地域が被さるところもあるし、なかなか簡単ではないのかもしれませんがね。私も少し思いましたが、でも先生方だけでやるというのが一番本当は外部との接触もないし、安心なのだろうかなという思いで聞いておりました。

(渡部委員)

そうですね。その点はちょっとやはり厳しいかもしれませんね。

(丸山市長)

もう少し状況を見ないと、簡単にはそれやりましょうというふうには旗触れないかもしれないなと思って聞いておりました。ありがとうございました。

(岩間委員)

新型コロナ、誰も想像もしなかったウイルスが広がって、当たり前が当たり前でなくなるというような状態です。予測もつかない、準備もしていない中、突然の休業要請。家庭でもそうですし、職場でも様々な対応がありました。まずは休んでいいよと、家族で面倒を見て、学童に行かせなくても対応できた家庭もあれば、職場の方に連れて来ていいと、社員の子どもさんを見ている職場もあったと聞いております。そのような事をしながら、一番衝撃だったのが「卒業式」、休業要請があった中での卒業式。親としてはとても大きな3年間の節目のところで、親の思いもぶつかり、校長先生はじめ先生方の様々な思いは分かるけれども、子どもたちの安心・安全を守りながら、それではどういうことなら出来るのかという事で、臨時の集まりにも同席させていただきました。そういった部分では本当に皆さんの真心を感じることが出来て、それは改めてコロナがなければ感じる機会だったのかなと思っています。先ほど、中学生が思った意見の他に、私がSNSで福岡県の小学6年生が新聞に投書したものを目にして、千何百件もシェアされていて、これを今日ここでリアルに共有して小学6年生が思っていることをみなさんにこの場でお伝えすることが私の役目かなと思って、記事をプリントしてきたので読ませて頂きます。

『おとなに聞いてほしい』

「僕は、福岡市の小学校に通う6年生です。福岡市の学校では2か月半以上続いた休校での勉強の遅れを取り戻すために、授業時間を短縮して授業の数を増やすことや行事の削減、また、夏休みの短縮も決まりました。これから、暑い夏にマスクをして、友達と距離を保って、急いでたくさん勉強する。考えただけで息が苦しくなり、学校に行くのがつらいと感じます。僕たちはロボットではありません。体育や調理実習などもやりたいです。プールや運動会などの行事もなくなります。体育や行事で活躍する友達もいっぱいいます。楽しみにしていた修学旅行も行えるかどうか今のところわかりません。子どもの時にしかできないことがたくさんあります。勉強も大切なことだと思いますが、友達と遊んだり、ケンカして仲直りしたりして学ぶこともとても大切だと思います。このまま詰め込むしかないのでしょうか。本当に他にできることはないのでしょうか。大人に僕たち子どもの気持ちや意見を聞いてもらいたいと強く思います。」

という事で、福岡県太宰府市の小学6年生の投書です。それを見た親御さんなりもやはり自分の家で休んでいる子どもたちを見ながら、それからスタートした生活を見ながらすごく共感したという事で、私もすごく心に響くものがありました。酒田市でも各学校で様々な工

夫をしながら、教育課程の見直しを考えられていますが、リアルに子どもたちはどう思っているかということ、この記事を見て改めて、行事を削減する場合も何をするためにあった行事なのかという部分も見つめながら、授業時間を確保するために削るものであれば、そういったところの見直しなどもして、本当にやらなければいけない事、なくてもいいもの、授業の、先ほどの単元の順番を変えたりというお話もありましたが、見直しをしながら、なくてもいいものは外し、それが先生方の働き方改革にも繋がったりとか、本当に必要なものを見極めるいい機会になるのかなと思います。コロナの時にそんなこともあったねって大人になってから振り返ればそうなのでしょうけれども、そういったところに寄り添えるような対応など出来ればいいかなと思っていたところです。以上です。

(丸山市長)

ありがとうございました。渡部委員と岩間委員以外の方々、神田先生も大学教育に関わっていますから、あとの皆さん教員経験者でいらっしゃるわけですがけれども。衝撃的な発言ですね、僕たちはロボットではないと言われると、確かにそうだよなど。私なんかはその通りだなどと思ってしまいますけれども。学習指導要領を度外視してどんどん授業をなくしていけるものであれば、それでいいのかもしれない。そう簡単ではないなと思いながらも、今の太宰府の小学校6年生ですか。どうでしょうか、ご意見等ありますか。

(村上委員)

今、聞いて思ったのは、やはりいろいろな縛りはあるし制約もあるのだけれども、例えば修学旅行については「こうしたら出来るのではないか」というのを子どもたちと一緒に約束事も決めていきながら、新しい形なりを作っていくという事も大事なのかなと思いました。

お話を聞いていると、各学校で児童の実態を踏まえた上で、工夫して教育活動、教科指導なりを進められているというはとても嬉しい事でしたし、(修学旅行を含め)学校行事についても、子どもたちの思いも受け止めながら、「じゃあ、やるためにどうしたらいいのだろうか」、これは守れ、これをしなさいではなくて、そういう提案が必要だし、そういう話し合いというものもすごく大事な事なんじゃないかなと思います。そうすることで、思いのある行事になるのではないかなという感想です。

(丸山市長)

齋藤先生はどうですかね。

(齋藤校長先生)

小学校の子どもたちを考えた時に、やはり縦割り活動というのが非常に大きな意味を持ちます。同学年の子どもたちと一緒にやる活動もそうなのですが、特に6年生にとって1年生の面倒を見たり、低学年を引っ張って行ったりということは非常に子どもたちの成長にとって大きなウエイトを占めるものであるのです。そんなことを考えると、密にならないという

事のために、例えば運動会を中止したり、いろいろなものが出来なくなった場合に、果たして6年生の成長という事を考えた時に、子どもたちにとって伸びる時期に伸ばしてあげられないというのはあります。各校ともやはり運動会は子どもたちがリーダーシップを発揮する6年生と、フォロワーシップを学ぶ低学年と、一緒に活動することが大事だろうという事で、今いろいろな工夫をしています。それから今、村上委員からお話があったとおりに、学校によっては、ちょうど運動会の計画を立てる時期になっています。やはりこちらからこの種目という与え方をせずに、子どもたちにコロナウイルスに気を付けながらみんなで活動できるのはどんな種目がいいという事で、様々なアイデアを出している学校も実際聞きました。本校でもそういうふうに進めようかなということで、担任とも確認をしていますけれども、やはり集団で活動する意味だったり、異学年で相手を気遣う気持ちだったり、そういった事は出来る限り工夫してやっていきたいなと思っています。

(丸山市長)

今野先生はどうですかね。中学校になると今度受験とかもあるので、遅れている部分をどんどん遅れないように詰め込んで授業を組んだりする場面って結構多いのかなと思いながら、今さっきの太宰府の小学生の声を聞いておりましたが、でもあまりそんな声はないですか。

(今野校長先生)

例えば、生徒会の活動は大人側がレールを敷いてやっても子どもたちにとっては喜びに繋がらなくて、やはり生徒からいろいろなアイデアが出て、そして自分たちで決めて取り組む。そのような形にこれまでもしてきたのですが、出来る限りその要素を大事にしていきたいと思っています。

昨日、運動会の立ち上げ集会で、先生方から例年と違うので最初に校長から生徒に話をしてほしいという事だったので、先ほどのような話に触れました。「運動会に向けても例えば教員側としても何回も話し合いを重ねている。でも、これからはみんなからもいろいろアイデアを出してもらって、そしてその取り組みを通して繋がりの強さを感じ合える運動会、そして逞しく生きる力を感じる運動会に作り上げていきたい」と投げかけたつもりでいます。そんなことで出来る限り前向きに実施する方向で進め、どのように工夫出来るかを子どもたちにはいつも考えさせて、もちろん大きい所は教員側で決めなければいけないところもありますが、自分たちで決めて取り組むことを大事にしていきたいなと思います。

授業も先ほど申しましたとおり、スタートの段階で前年度の未履修の部分から入ったので、6月に3年生の4月の内容を指導する状況ですが、ただねらいを十分焦点化したら、「ここは委ねる」というように、今まではどちらかという教員側が指導し過ぎるほどのところを、生徒に委ねながら、急いで指導するという事よりも丁寧に指導しよう意識していて、子どもを中心に進めている状況です。

(丸山市長)

大宰府の教育委員会とは違うという事かもしれませんが、酒田の場合は先生方が配慮してそういう思いにならないように、学校の日々の活動を展開しているという事なのかなと受け止めておりますけれども、神田先生はどうですか。

(神田委員)

今回のこの新型コロナウイルスの問題というのは、答えがない中でその都度その都度最適と考えられる方法を選択していくしかないという事でこれまで進んできているわけですが、それぞれの学校でクラスターが発生することもなく、無事に学びを継続出来ているというのはこれは非常に上手くいったのではないかと考えております。その中で、様々な意見も出てきておまして、確かにその教科の学習以外の部分をどう考えるかというのもこれとても大切なことだろうと思っておりますが、是非ここまで上手くいってきているように見えますが、様々実際には課題もあるのだらうと思えます。それについて一旦今の段階で落ち着いているような状況でもありますので、点検してみるというのも必要ではないかと考えております。例えば、臨時休業中の家庭での学習という事を考えた場合に、身近なところでの状況しか分かりませんが、最初にしっかり計画を立てて朝は何時に起きて、最初にこの教科をやって次はこの教科というような計画を立てていたのだけれども、一度そのリズムから崩れてしまうと、なかなか立ち直ることが難しいというか、ダラダラずるずる行ってしまうというような状況が続いてしまうというような話も聞いたことありました。あとはやはり体力が落ちてしまって、いざ学校が始まって走ったらすぐに疲れてしまうとか、体力の問題もあるかと思うのです。今後、また同じようなことが起こらない方がいいですけれども、また第2波があつて、臨時休業になった場合、学校と家庭で役割分担をしながら家庭としては出来る事をやっていくことになるのかなと思っておりますが、学校から要請が来た時に今回の経験を踏まえてしっかりエビデンスを蓄積しておく、今回に基づいて家庭ではこれくらいやっってくださいね、今回の臨時休業期間中で体力が落ちてしまって、走るスピードが遅くなってしまうというようなことが分かっているならば、家庭でこれくらい運動する時間を取るといいのではないかと根拠を持って伝えられるので、そういったエビデンスの蓄積というのは是非やって頂きたいなと思いました。

また、学習習慣についてもどれくらい勉強したかしなかったかというのはこれもデータを取ることが出来ると思うので、それがこれだけ学力差に繋がっていますよというようなことが出れば、それぞれの家庭でもちゃんとやらなければならないという事に繋がっていくと思うので、そういうデータを欲しいと思います。

最近では、アンケートを送る際に、紙ですと入力するのが非常に大変ですが、WEBページのアンケート、Google フォームなどを活用すると、簡単にアンケートを取ることが出来て、そのデータを表計算ソフトの形で落とすことが出来るので、今、安心・安全メールのように回答していただければ、それぞれの家庭のデジタル化というか対応状況も確認できると思います。確認できない家庭については、紙を渡しますので紙でお答えくださいとすると、各家庭でどれくらい現時点で対応できるか、これが今後の GIGA スクー

ル構想が進んでいった時にも、活用出来るデータになっていくのではないかと思いますので、是非そのデータが欲しいと思いました。

それから、いわゆる行事ですよ。行事をどのようにして行っていくかという事を考えた時に、やはり行事は行事で非常に重要なものだと思いますし、それぞれ子どもたちがどのようにして進めていくか検討しているということなので、特にこれ以上やることはないのかと思いますが、今後 GIGA スクール構想が進んできた時に、やはりコンピュータを活用した授業というのを上手く行っていくことによって、さらに行事等に割くことが出来る時間を確保することが可能になるのではないかと考えています。GIGA スクールというのは単にこれまで行っていた授業をただオンラインで、パソコンでやりますということではないと思います。新しい授業を創造していかなければならないと思いますし例えば宿題を出すということを考えて際に、インターネットに繋がったパソコンで仮に宿題に回答するとして、その子が何がわかって何がわからないのかということが明らかになれば、間違え方のパターンから、その子は理解できていないということだから、追加の問題を出しましょうというような形でそれぞれ個別にカスタマイズされた宿題、学習を進めていくことが出来るようになっていくと思う。仮に学校の中で授業を受ける際に、問題を解くという際も、もちろん手書きで書くこととの重要性もあると思いますから、あらゆる場面で、パソコンで回答ということにはならないと思いますけれども、パソコンで回答してデータを蓄積していく中で、それぞれの児童生徒の強み弱みのようなものが分かってくる、それに応じた課題を出していく、そういう展開が今後できるのではないかと。そういった部分の研究開発、これをプログラムとして実装していく部分については、例えば大学などでも協力できる部分があると思いますが、一方、この問題がわからないときに、何がわかっていないのかは、我々大学ではわからない部分もあるので、そういった所は一緒に取り組んでいけるような、そういう研究開発みたいなものは今後有効になっていくのではないかと感じました。

(丸山市長)

エビデンスの蓄積は大変重要だと思います。今回のコロナの対応で、まさに今、子どもたちがエビデンスを作り上げていく状況なのでしょう。教育委員会として酒田市の状況を数値化してもらい、学習習慣、学力差が出てくるのかも含めて、次に生かせるようなエビデンスの積み上げを教育委員会からしていただければ、次の対策に有効な資料になるのではないかと思います。ぜひ教育委員会の課題として捉えていただければと思います。

コロナと GIGA スクールがこの半年で一気にきたなと感じます。コンピュータを活用するということですけど、研究開発というところも同時進行で、そういう体制、マンパワーとしても必要だし組織としても必要かなと思っています。機械を整備すればどうなるという話ではないですから、それに留まらないで生かす手法を開発していかないといけない。神田先生はそちらがご専門だったようなので、これからも力を貸していただきたい。デジタル化を教育に活かすということ。ただ、学力のことをいうと、それが進めば進むほど学校の数はその間にいらなくなるのではないかと逆に思ってしまいますが、ただ学校は学力だけを勉強すると

ころではないので、先生や友達と直接触れ合ったりすることも必要になってくるのですが。しかしながら授業、教科を学ぶということも大きな比重を占めているわけで、そのところでその子にとっての弱点はどこかということもすべてデータとして GIGA スクール構想を進めるにあたって出てくるとすると、学校の数がある程度絞り込んでもいいのではないかという感じもするわけです。そこは市長部局としては学校の数についても教育委員会として、少し検討してくださいねと話をしてしています。GIGA スクールを進めれば進めるほど、そういう流れも同時に進めていかないと、我々の立場からするとコストの面で大変というところもあるので、そこは教育委員会にしっかり我々としての声も伝えないといけないなと思っています。DX（デジタルトランスフォーメーション）というのがあって GIGA スクールもその一環だという捉え方をすると、ICT 技術を使って教育の面でもより効果的な教育をする、教科指導をするというのは流れとしてこれからどうしても避けられない流れですが、大学は進んでいるわけですが、コンピュータを使ってその子の弱点まできちんとデータとして見出して、そこを補うという教育を、コンピュータを使ってやっていくというところまで、塾や高等学校ではやっているようですが、小中学校の域までそういうことができる、すぐにはできないと思いますが、そういう時代なのだなあと。少なくとも一人一台パソコンの整備しなければならないわけで、簡単な話ではないという感じがします。

（神田委員）

今の話はあくまでかなり未来の話というか、先の話になってしまって、まずはあらゆる事をコンピュータでやるわけではなくて、当然リアルというのも重要ですし、外に出ての活動を全てバーチャルリアリティでいいのかどうかというと、実際に現場に出て感じる事が出来るものもあると思うので、どういう使い方をしていくかというのは非常に難しいと思いますし、また家庭の環境によっても自宅で活用するというのは本当に出来るのかどうか、インターネット環境を整備していくという事にはなっていますけれども、大学でオンライン授業をやってみて、自宅でインターネット環境があったとしても、例えば集合住宅に住んでいるような場合、他の部屋でも使っているとやはり繋がらなくなって、オンライン授業の途中でプツプツ切れてしまうというような事もあるのです。オンラインで全員が、子どもたちが家庭から授業を受けるというのが、直ちに本当に実現できるのか、大学生であればプツツと切れた時に再度繋ぎ直すことが出来ると思いますけれども、小学校 1 年生が自分で出来るかどうか考えると、なかなか使い難さが使いたくないという気持ちに向かっていってしまうのは非常に残念だなと思います。最初の段階ではパソコンを使って勉強をすると楽しい、そこからいかないといけないと思うので、まずは写真を撮ってみてそれをみんなに見せ合ってみるとか、そういったところからやっていきながらだんだん進めていくのかなと考えております。

（丸山市長）

ありがとうございます。一通り皆さんから意見頂いていますが、村上先生何か全体としてありませんか。

(村上委員)

学びの保障ということでは、今、教育課程の見直しをその都度図りながら、各学校では制約がある中で丁寧な指導を進められているなという思いであります。

ただ、その中でこれからも大事にして頂きたいのは、今までもそうであったように形成的評価を重ねながら、子どもたちが自分自身はどれくらいの習熟度なのだろうかということを確認しながら、復習したり、やり直ししたりする、また、指導者はそれを基にして授業改善をするといった、今までの当たり前を大事に重ねていってほしいと思いました。

コロナ(対応)と言われ、授業を想像したときに、大事にしたいことは、こんなときだからこそじっくり書かせることで言葉の力を磨く機会にしたいと思いました。書いたものを読み合う事で、そこに対話も生まれます。今、もう始まっている新しい学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」をどうしたら、制約がある中で出来るだろうかということ、先生方に教材研究してもらいたいと思います。だからこそ、放課後の時間は消毒ではなくて、そういうゆとりの時間が持てるようにしたら、先生方はきっとそちらに向かってくさるので、そういう時間が確保出来たらいいなと思いました。

最後にもうひとつ、酒田市教育委員会では「いのちの教育」というものを今一番に掲げて進めています。今回、私はいろいろな記事を読んで、先程の岩間委員の子どもの考えもそうでしたが、例えば、愛知県の岡崎小学校の、「コロナ小の子」と言われた子どもたちが、岡崎医療センターに励ましのメッセージを送ったという実践(補足:学校の向かいにコロナ患者を受け入れた岡崎医療センターがあるために「コロナ小の子」と言われたが、感染者の苦しさを思い、励ますメッセージを送った)、ドイツのメルケル首相の演説、もちろん近くは亀ヶ崎小学校の子どもさんが歯科医さんに送ったもの(フェイスシールド)のことなど、そういったことを道徳の授業などで是非扱ってほしい。市教委で資料集として準備して、先生たちにお願ひして活用することも出来るし、「きょういく酒田」もあるので、そこで子どもたちの考えとか先程の三中の子どもたちの考えなどを、保護者の方や市民の方にも伝えていけたら、こういうふうに酒田市教育委員会は「いのちの教育」、生き方とか命を大事にしているという発信になると思いました。

また、1カ月近く経ち子どもたちも慣れてきた中で、不安定さも出てくると思うので、いじめも含めた心のアンケートなどを取って頂きながら、子どもたちの思いを受信する場を持って頂けたらありがたいと思いました。

(丸山市長)

今、「きょういく酒田」という言葉ができました。酒田市教育委員会は「こうなんだ」「こういう風に考えている」ということ、酒田の子どもたちや学校の実態のことを、「きょういく酒田」を通じて、我々市民が理解をする必要があると思います。どうしても報道、マスメディアを通してしか理解していないところがあるので、そういう面では、「きょういく酒田」は年1回ですか?これから今、何を入れようかと考えているところだと思ひますが、今、村上

委員からもお話がありましたけれども、これは教育長にお聞きしてよろしいですか？

(村上教育長)

この会議後に編集会議を予定しています。少し前から編集小委員会的にどんな方針で紙面を作ればよいか、大枠で割り振りを検討し始めているところです。その中で我々が悩んでいるのは、コロナをどう扱えるかということ。どうしたらいいのだろうと考えているところです。まさに意見をいただいたように、コロナ禍の状況の中でどういう教育が進んでいるのか、子どもたちにどんな変化が起きているのか、子どもの姿はようになってきているのか、10月1日号でまだちょっと先なのですが、今検討をしているところなので、ご意見を頂戴してこの後の議論が深まるのではないかと思います。私としては、子どもの姿をなんとか教育的価値として捉えてお伝えすることが出来ないかなという事です。もちろん、安全面であるとか次々と起こってくる判断などについては、今までもありましたが、なかなか見ようとしても見られないのは子どもの姿なので、マスクしている姿は分かるのですけれども、何が起きているのだという事なのです。子どもたちの不安定な要素であるとか、あるいはその中で成長しようとしている姿であるとか、そういう事をお伝え出来れば良いと思います。ただ、これは「きょういく酒田」で全戸配布になりますが、考えてみますと家庭の方には各学校が出している学校便りまたは学級便りである程度様子がきつと伝わっているだろう。ただ、私たちは市民の皆さんが、子どもたちが今どうなっているのかというのを、回覧板で来たりしますけれども、それぞれの学区の話になってしまったりするものですから、「きょういく酒田」はひとつのツールとしては非常に良いのかなと思っています。これはあくまでも私の将来的な事で、今月号ではないのですが、QRコードを付けておいて、この記事に関する事で例えば第三中学校の様子が見られるとか、学校便りの写真が見られるとか、もっと知りたいなという場合はQRコード付きの「きょういく酒田」というのも良いのではないかなと考えています。

(丸山市長)

今回のコロナ禍というのは、教育行政にもものすごく影響を与えていると思うのです。今回「きょういく酒田」の話が出ましたが、本来、あれはA3裏表、A4にすると4ページ、今、酒田の子どもたちに何が起きているのだという事を市民の方から知ってもらうために、別にそのページにこだわる必要はないのです。こういう時期だからこそおそらく別冊になろうとも、ちゃんとしたものを作って出してもいいと思っているので、予算が必要であればいくらかでも補正するのですが、今のQRコードの話もそうですが、もしそういう事を10月1日に向けてやるのであれば、9月の補正をおっしゃってもそれまでですし、7月下旬にはまた臨時議会開いて補正予算を設けるという話もありますし、本来はそういう活動にこそ国の交付金を投入すべき話だと思っています。一番説明が付くわけです。こういう時期だからこの教育現場の現状を市民に訴えかけるためにこれだけの費用がかかる、増刷版の「きょういく酒田」という事になりますが、それはやってもいいと思いますし、今後の第2波、第3波に備

えて、子どもたちの健康を守るため、学習の機会を守るためにこういう事をやるのですよという事を伝えることも大事だと思うし、今日これから会議があるというのであれば、別にA3裏表、A4にすると4ページにこだわる必要はないのです。この時期だからこそ別冊、増刷分で10ページ、20ページのものがあったとしても別に不思議ではなくて、やってもいいという事をお伝えしたいと思います。お金に糸目は付けませんとまでは言いませんが、こういう時期だからこそお金をかける意味があるという事です。GIGAスクールの話もまたこれもありで、これからやろうとしているという事も含めて、もし市民にもっとアピールするべき事があれば、QRコードもやれるのであればやってもらってもいいです。

(村上教育長)

特集記事をしているものがあります。今新しい教科書にもQRコードが付いているので、そこをクリックすると、その勉強に関わる動画を見ることができたり、例えば「スピーチをしましょう」などは、国語ですと実際スピーチをしている子どもさんが出てきて、音声・動画で見られる状態です。もう少し詳しく知りたいとか、もう少しリアルな情報に入りたいという場合に、例えば、写真に入れるとか、三中ではこのコロナの時間にどう過ごしているかを見ることができる、特定の学校のみ情報では不安が残るかもしれませんが、全部する必要はむしろなくて、どこの学校でも大体こういうふうにして頑張っているということ、もうひとつ教育的な価値という事を発信しないといけないという部分があります。報道写真集ではないのでやはり子どもの声で載せられる部分とか、考え方で伝える事が出来るようなところ、また、私は感謝のメッセージも伝えたくて、学校に対していかに多くの市民の人が応援しているかということ、マスクの話はそのひとつですけれども、それに対して応えたいという気持ちがあるのです。お礼を言いたい。お礼の仕方というのはやはりこうやって過ごしていますよという事を伝える事がお礼になるというふうに思います。ですから、何とか「きょういく酒田」をそういうふうなものにしていくことが出来ないかと思います。最大のトピックス、1面のトピックスだけではなくて、今、市長がおっしゃったような今の酒田の教育の実情を分かってもらいたいという事がとても大事なことです。

(丸山市長)

予算は別に心配なくて結構です。一番気になったのは、医療関係者の子どもたちがいわれのない非難を受けたり、いじめに合ったりという事がないようにしてもらいたい。子どもたちから医療関係者に感謝の言葉がこういったもので伝わるとか、QRコードでそういう映像で繋がるような事が出来たら、それを見た方は非常に嬉しいし、酒田の学校教育は健全だというふうに思ってもらえるのではないかなという思いで今聞かせてもらいました。ぜひ、教育委員会の方から少しご検討いただければ、「きょういく酒田」期待しております。よろしく願いいたします。

一定程度時間が経ちまして、いろいろ意見を頂きましたけれど、提案や問題提起という形もあると思いますが、何かこれだけは言っておきたいという事があれば、両校長先生でも結

構ですので声を出して頂ければこれからまた市と教育委員会で検討していきたいと思えます。

危機管理監も同席していますので、これから感染症の対策本部会議を開くときにも念頭に置きながらいろいろなご意見を市の対応に反映させていければと思っていますので何かございますか。常に教育長が出ておりますから、皆さんの声をしっかりと対策本部会議で伝えて下さると思えますので、よろしくお願いいたします。

今日、様々意見をいただきました。「きょういく酒田」への期待も大いに持たせて頂いたところでしたので、最後に全体の意見交換を含めて教育長から少しコメントを頂きたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

(村上教育長)

一番最初に申し上げましたように、酒田市の判断という事が各処で求められた折、教育委員の皆さんからは「大丈夫ですからいつでも行きますから呼んでください。」と言われたのです。これほど頻繁に教育委員会を臨時で開いた年はないと私は思っています。「大丈夫ですから遠慮しないでくださいね。」というふうに言われて、もちろんそれぞれの忙しい中での事でしたので、時間帯が変則的だったり夜だったり、あるいは専門家会議の後だったりとか、頻繁に委員会を開いてきたという事がありまして、それも市の方の本部会議と連動した動きです。市の本部会議の方にこういう事を伝えるけれども、教育委員会としての合意としていいかどうか、やはり手続きとしてはかなりキメの細かいやり取りをしなければなりませんので、そういった事について本部会議それから委員の皆さまに感謝を申し上げたいと思えます。これからもいろいろ出てくるだろうなという事を感謝申し上げたい。それから、安全面の事につきましては、各学校の実情も聞いていますけれども、これはしっかりパイロットして行って、より安全性を高めるための何か出来る事があればという事で考えたいと思えますし、先程の消毒の範囲や頻度、それから先生方の疲労度といったようなことについても、最初からこう決めたのだからという事ではなくて、やはりしっかりモニターしていきたいと思えます。そういう面では校長先生方に置かれましては、学校の実情というのを遠慮なく知らせて頂きたいという事をさらにお願ひします。私は、長い目を見た場合、今、子どもたちが経験している事というのは、学校教育ですけれども、世の中から何を学んでいるかということ、大人が物凄い悩みを抱えている姿を目の当たりにしているという事です。これは今までになかなか子どもたちが経験したことがない、「大人ってきっと大丈夫だよ」という安心感の中で子どもは育っていくわけですが、大人が物凄い悩みをリアルタイムで感じているというような現実、それから何を学ぶかという事よりも、それと共に生きていることがもう学びそのものだと思うのです。そうすると完璧、完全な答えはないという事をよく理解していくようになるということです。それから毎日出てくるデータ、特に死者数のデータなどは毎日見るわけです。こんなふうに現実を見ていく中で学んでいくことって何だろうと私は改めて思えます。当然、学習指導要領の中で決められた事を学ばなければならないという個々の学びも、用意されて学年に配当された学びというものもありますが、その学びも大事ですが、自分で結局その中で学んでいるのは大人でも判断が揺れるのだという現実です。揺れている判断

で、結局は自分で決めなければならないのだという、それを物凄い現実の中で学んでいると私は思います。誰かがどういうデータで解除するとか、あるいはロックされるとか、そういった事はよく見ていると思いますが、実はそれだけで自分の行動は決められないという事を小学校の高学年ころからもう学び出している。いいよと言われたかもしれないけど、私の家は行かないという判断をもう学ぶわけです。僕は行かない、あるいは行きますという事を結局学んでいくわけです。こういう自己決定していく学びというのを学ぶ特異な年ではないかと思えます。これは、東日本大震災の学びとはちょっと質が違い、突然襲ってくる脅威ではなく、次々と毎日考えていく脅威なので、そういう学びを学ぶ凄い時代を子どもたちは今生きています。そうすると、自己決定していくことの大切さを、今こそ、何をしない方がいいか、何をしたらいいかという事を、教育の中で活かして鍛えていくのだという覚悟を持って、コロナもそうだし、隣の人が行くから僕もそうするではなくて、自分でちゃんと決められるという教育に活かした方がよい、活かさない手はないと思えます。教科の指導は大事ですけども、そういうことが教育の本質的な目標になっている、自己決定していく力を付ける事が教育の大切な目標になっているという事を、学校も社会も家庭も応援してほしいなと思ったところです。そういう意味では、「僕はロボットじゃない」と言ったのはそのとおりで、だからあなたは何をした方がいいと思うかという事を、常に一緒に考えて考える。僕には電気じゃなくて意志が流れている。だからこそ学校は人扱いするという教育の仕方が大切なのかなと思えます。方法論としては各活動で改めてアナウンスしたいなと思えますし、「きょういく酒田」の編集の在り方ももう1回どうしたらいいかという良い話題提供になっています。子どもたち1人1人のペースを見た時にいろいろな差が大きくなってきているというのが現実だと思います。そういう意味では、1人1人の子どもの対応をよりしなければならなくなってきているので、形成的評価は、最後にテストするのではなくてどこまでできているか段階的に見ていくので、そういった大切さもはっきりする必要が益々あるのだらうと思えます。ぜひ、これからまだ始まったばかりかもしれないので、これからのコロナ対応に活かしてまいりたいと思えます。

(丸山市長)

ありがとうございます。非常に中身の濃い話が出来たと思えます。最後に何かございますか。特になければ齋藤教育次長にお返しします。

4 閉会

(齋藤教育次長)

次回の会議の日程でございますが、具体的な開催日時等につきましては、改めて事務局よりご連絡を申し上げさせて頂きたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

それでは、これを持ちまして令和2年度第1回酒田市総合教育会議を閉会いたします。

どうもありがとうございました。